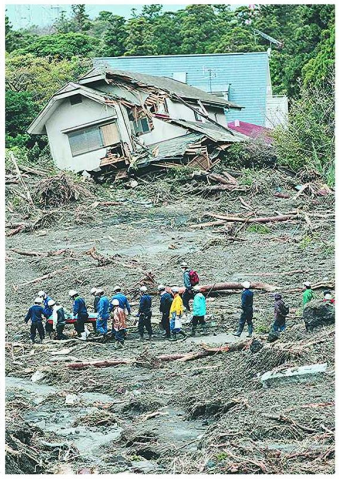
2013年11月04日 中日新聞 朝刊 19頁

勧告待つより 自ら判断重要

兆候感じたら まず避難を



伊豆大島で発生した土石流。想定していなかった住民も多く、被害が広がった＝東京都大島町で

伊豆大島（東京都大島町）の土石流で多数の犠牲者が出たことで、土砂災害の恐ろしさがあらためて注目されている。中部地方でも山間部や都市の丘陵地帯など各地に危険箇所が点在。砂防ダム建設などの対策や、自治体の避難勧告を待っていては間に合わない。専門家は「住民自身が土砂災害の兆候に気づくことが、最も犠牲を防ぐ手段」と呼びかける。（相坂穣、中沢誠、梅田歳晴）

■どこでも起きる

土石流が起きた伊豆大島の三原山の中腹。緑の森がえぐり取られ、茶色い山肌がむき出しになっていた。

「粘りけのある溶岩流なら人間の歩きより多くの人が避難できる。もゆっくり進むから、土石流の原因は火山灰の層が崩れたこと」と指摘する。

「山津波」ともいわれ、発生後は逃げるのが難しい。崖崩れは、崖のほかに道路ののり面でも発生。土石流より範囲は狭いが短時間の大雨でも起きる。比較的緩やかな斜面が滑り落ちる地滑りは広範囲に被害が及ぶが、他の二種類と比べ当初の動きは鈍く、避難はとりやすいとされる。

■中部も被害続発

中部地方でも、深刻な被害が相次ぐ。二〇〇四年の三重県宮川村（現大台町）の土石流、一〇年七月の岐阜県八百津町の崖崩れなど犠牲者が出た＝表参照。

三重大の山田孝教授（砂防学）は「中部地方は日本アルプスをはじめ、山がちで急傾斜の崖、渓流が多く、警戒が必要だ」と話す。

日本最大の断層帯一中央構造線一、温泉地帯など土砂災害を誘発するとされる地質的な条件もそろっている。

名古屋市の東部丘陵など、都市部では急傾斜地や谷の中に開発された新興住宅地があるが、豪雨で土石流の通り道になることもある。

伊豆大島の土石流では、町が避難勧告を出さなかったことが批判された。だが、山田教授は「その地域で経験がないような災害が起きる場合、自治体側に正確な判断を期待することは難しい。住民自身が危険を感じ取り、避難を判断することが重要」と指摘する。

■バケツ一つで

大規模な土砂災害には前兆現象もある。山鳴りや立ち木が裂ける音、川の水の濁り、腐った土のにおい、崖のひび割れや陥没など、「何となく普段と違う」と感じ取ることが、自分と家族の生死を分ける。

また、各地に設置された降水量計の値はあくまで局地的な記録で、一軒一軒に降る雨の量と必ずしも一致しない。山田教授が提案するのは「家庭用のバケツを家の庭などに置くこと。十分だまれば降水量一〇〇ミリという目安になる。一般的に累積一五〇ミリになれば、土砂災害の危険性が高まるとされ、避難の目安になる。

行政の勧告前に住民が自主避難をして土石流を免れた例もある。

一一年の台風12号による紀伊半島豪雨では和歌山、奈良県などで多くの犠牲者が出た。山田教授が聞き取り調査した三重県紀北町では、町内会や自主防災組織など地域のリーダーが長時間の降雨や地盤の緩みを基に、住民に避難を呼びかけて被害を減らした。

山田教授は「われわれは行政に頼るだけでは、自分の命は守れないということを東日本大震災で学んだ。土砂災害でも自助、共助を考えなくてはいけない」と強調する。

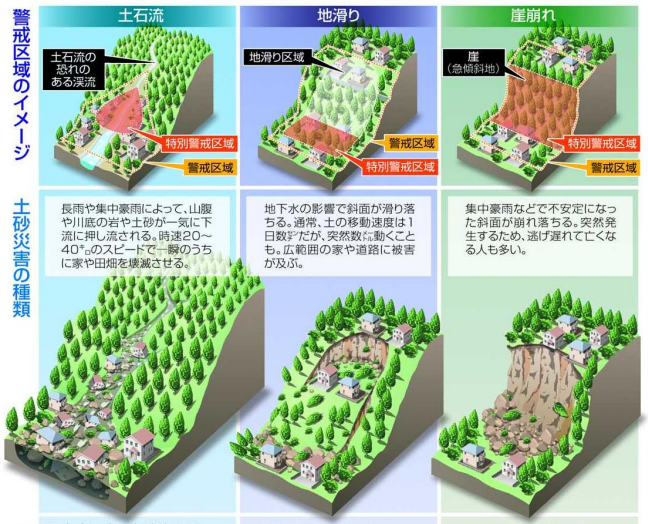
次回は、18日に掲載します。

行政だけに頼らず 地域の共助もカギ

中部地方の過去の主な土砂災害

年月		場所	被害状況
1996年	12月	長野県小谷村	砂防ダム工事中、土石流で土木作業員14人死亡
2000年	9月	名古屋市や小牧市	台風14号豪雨による土砂崩れで3人死亡
04年	7月	福井県鯖江市など	梅雨前線の影響による福井豪雨で、土砂災害などで3人死亡
04年	9月	三重県大台町（旧宮川村）	台風21号豪雨による土石流や土砂崩れで死者不明者7人
06年	7月	長野県岡谷市	梅雨前線の影響の豪雨による土石流で7人死亡
		福井市	梅雨前線の影響の豪雨による土砂崩れで2人死亡
10年	7月	岐阜県八百津町	豪雨による崖崩れで3人死亡
13年	9月	福井県美浜町	台風18号豪雨で裏山が崩れて1人死亡

警戒区域のイメージ



土砂災害の種類

長雨や集中豪雨によって、山腹や川底の岩や土砂が一気に下流に押し流される。時速20～40キロのスピードで一瞬のうちに家や田畑を壊滅させる。

地下水の影響で斜面が滑り落ちる。通常、土の移動速度は1日数ミリだが、突然数メートル動くことも。広範囲の家や道路に被害が及ぶ。

集中豪雨などで不安定になった斜面が崩れ落ちる。突然発生するため、逃げ遅れて亡くなる人も多い。

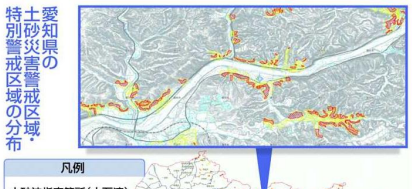
前兆現象

- 山鳴り、立ち木が裂ける音、石がぶつかり合う音
- 急に川の水が濁り、流木が交ざる
- 腐った土の臭いがする
- 雨が続くのに川の水位が下がる

- 地面のひび割れ・陥没
- 崖や斜面から水が噴出
- 井戸や沢の水が濁る
- 樹木が傾く

- 崖にひび割れができる
- 小石がパラパラと落ちてくる
- 崖から水が湧き出る
- 地鳴りがする

愛知県の土砂災害警戒区域・特別警戒区域の分布



各県のHP

地域の危険場所 簡単に検索可能

中部地方の各県はホームページで、指定した土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域のマップを公表している。住所などを検索すれば、地図上で自分の住んでいる地域の危険エリアが分かる。崖崩れ、土石流、地滑りと土砂災害のタイプごとに判別できるようになっている。

岐阜県で公表している「ぎふ山と川の危険箇所マップ」では、今年六月から、簡単に警戒区域を調べられるように郵便番号を入力して検索できるシステムを導入した。担当者は「検索しやすくすることで危険な場所をより多くの県民に周知し、防災意識が高まれば」と期待する。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています